

来賓挨拶

経済産業副大臣
関 芳弘

新年明けましておめでとうございます。

横塚会長を始め情報サービス業界で活躍されます多くの皆様方のご参加のもと、賀詞交換会がこのように盛大に行われますことを心よりお慶び申し上げます。また、本日に向けてご尽力くださいました皆様方に敬意を表しますとともに、御礼を申し上げます。



さて、2018 年を振り返りますと、近年のグローバル化の動きの巻き返しとも言えます、保護主義への懸念が国際社会で高まっており、また電子商取引を含む国際的なルール形成への期待の高まりがありました。国内では様々な分野における人手不足の顕在化、相次ぐ自然災害の発生など課題が数多く感じられる一年でした。

私自身としましては、経済産業副大臣を拝命して間もない昨年 11 月に、JISA「ASOCIO Digital Masters Summit 2018」の開会式に出席させていただきました。日本の情報サービス産業の海外展開に向けて、そのプレゼンスを示す観点から非常に有意義な取り組みとして強く印象に残っています。是非引き続き日本の情報サービス産業の海外展開をリードしていただきますように宜しくお願い申し上げます。

また、大阪・関西の 2025 年万博誘致決定の嬉しいニュースもありました。これは、政府・自治体・経済界が一体となった誘致活動の成果であり、皆様のご協力に御礼を申し上げます。しかし、まだこの万博への準備はスタート地点に立ったに過ぎません。これから再び政府・自治体・経済界が一体となって、オールジャパンで準備を進めていく必要があります。IT 技術の活用を始め、皆様のお力をお借りすることも多々あるかと思えます。私も国際博覧会担当の世耕大臣の補佐役として全力で取り組んでいきますので、ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

近年、デジタル技術のめざましい発展を背景として、あらゆる企業にデジタルトランスフォーメーションへ本気で取り組むことが求められており、各企業が付加価値を生み出す攻めの姿勢で IT 関連投資をすることが期待されています。そのために経済産業省としましては、一つに企業におけるデジタルトランスフォーメーションへの取り組みや、情報資産の状況を簡単に診断することの出来る見える化指標の策定。二つには、ユーザー企業・ベンダー企業間のモデル契約ガイドラインの制定に取り組んでいます。また、IT 分野への人材不足の対応としまして、人材育成やスキル変換に向けて第 4 次産業革命スキル取得講座の認定等に取り組んでおりますので、是非ご活用いただき

たいと思います。その他、日本の情報サービス産業の海外展開を支援するべくグローバルなビジネス環境整備に向けた取り組みとしまして、G20 大阪サミットの機会を活用して電子商取引の国際的なルール形成にも取り組んで参ります。

さて、今年は5月に改元、10月には消費税増税が予定されており、ITシステムの対応が求められています。私自身、銀行員時代にシステム更新を担当した体験があり、その大変さは身をもって分かっています。皆様に置かれましても、事前のテストやリハーサル、システム間連携の確認等に万全を期していただき、業種・業界を超えたリーダーシップを発揮してスムーズな対応を支えていただくよう宜しくお願い申し上げます。

結びといたしまして、情報サービス産業協会及び会員企業の皆様のますますの御発展、本日御列席の皆様の御健勝と更なるご活躍を祈念して、年頭の挨拶とさせていただきます。

乾杯挨拶

独立行政法人情報処理推進機構
理事長 富田 達夫

新年明けましておめでとうございます。

大晦日から新年にかけて、“平成最後の大晦日”、“平成最後の新年”といったように一つ一つ冠が付いておりました。先程横塚会長よりこれからの15年といったお話もありましたが、遡って平成の30年間を振り返ってみると、平成元年には色々な事件が起きました。一番印象深いのは、東欧革命がありベルリンの壁が崩壊していったこと、またその年の年末にはブッシュ大統領とゴルバチョフ大統領がマルタ島で会談を行い冷戦が終結したことです。



実は30年前の平成元年は、インターネットに国際的な商用ISPが初めて出来た年であり、「.jp」がスタートした年でもあります。我々IPAで取り組んでいるセキュリティにおいても、国産のウィルスが初めて出来たのは平成元年です。この30年で情報セキュリティ被害は膨大に増加しましたが、それは私たちがITで世の中をもの凄く便利にできたと同時に、色々な弊害も一緒に生み出し、社会課題を作ったからです。

これはITだけの問題ではなく、先程横塚会長がおっしゃっていたように、私たちの暮らしが便利になれば便利になるほど、そこに色々な矛盾を生み出してきたということです。この問題をITで解決していかなければならないという心強いお話を聞いて、我々IPAも経済産業省の指導のもと、是非皆様方と手を取り合って社会課題の解決に向けて一緒に邁進していきたいことを、決意を持ってこの場で述べておきたいと思いません。

人材はこれからどんどん流動していきましますし、皆様方の周囲も色々な形で動いていくことがあると思います。しかし今言った想いを一つにし、色々な所で行動に移していければ、日本が社会課題の解決の起点となり、日本企業も強くなれると私は固く信じています。横塚会長の初夢を夢としてだけでなく現実にするために、是非皆様方と手を取り合って頑張っていきたいと思えます。今後とも是非宜しくお願いいたします。